

## 研究の背景・目的

島根県の中国山地では、広島県から分布を拡大したニホンジカが県境の飯南町や邑南町を中心に増加しています。シカが増加すると、農林業への被害発生と共に森林生態系へも著しい悪影響を及ぼします。そのため、シカが増えすぎないように捕獲による個体数管理が必要です。しかし、中国山地にはこれまでシカが生息していなかったことから、捕獲者には十分な捕獲技術が備わっていません。そこで、ICTシステムを用いた捕獲装置などによる捕獲を実践して、現地への技術移転を行います。



## 研究方法

- ①島根県統合型GIS（マップonしまね）を使ったシカの生息情報の一元的管理システムを構築し、生息密度マップの作成によって、中国山地での重点捕獲地域を抽出・公開します（全県を対象）。
- ②冬期に餌場となってシカが集まる場所にweb上のライブ映像による遠隔監視・操作が可能なICT（通信情報技術）システムを用いた捕獲装置を導入して、効率的な捕獲を実証します。また、安価で自作が可能な捕獲檻を試作して、捕獲性能や耐久性を検討します（飯南町、邑南町のモデル地域）。
- ③シャープシューティング（誘引狙撃法）を試行して、餌の置き方（季節、餌種類、人、配置時間）、爆音機による銃声音への慣れ、群れの捕獲順序などを検討します（飯南町、邑南町のモデル地域）。



## 研究成果の活用・今後の研究計画

中国山地でのシカの生息情報を一元的に集積し、生息密度マップを作成すれば、重点捕獲地域を明らかにできます。また、ICTシステムを用いた捕獲装置の導入などによるシカの効率的な捕獲を実証できれば、現地への技術移転を図ることができます。そして、効率的な捕獲を実践できれば、シカの高密度化を抑制して、被害発生リスクを低減できます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 金森弘樹・小宮将大

問い合わせ先 : 0854-76-3819

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 中国山地でのニホンジカの捕獲実証モデルの構築 (研究期間 : H27~31年度)

